



日本実験動物技術者協会 東海支部会報

2013 年 2 号 (通算 49 号)

目次

1. 開催のご案内

- (1) 平成 25 年度実験動物実技講習会(2 級試験対策) 2

2. 報告事項

- (1) 平成 25 年度 第 2 回役員会 2
平成 25 年度 第 3 回役員会 3
平成 25 年度 第 4 回役員会 3
(2) 第 1 回合併懇談会 3
(3) 『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技(第 6 回)』 3
受講者からの感想文 4

3. その他

- (1) メーリングリスト登録について 7
(2) 年会費について 8
(3) HP について 8



1. 開催のご案内

(1) 「平成 25 年度実験動物実技講習会（2 級試験対策）」について

日 時：10 月 19 日（土） 9:30～17:00

（受付 9:00～9:30）

会 場：名古屋市立大学 医学研究科

http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/guide/campus_map.html

講 師：日本エス・エル・シー株式会社 藤田 芳顕先生

定 員：10 名

会 費：会員 5,000 円 非会員 10,000 円

小動物を用いた実技を中心とした講習会です。

基本的な手技を取得したい方、2 級試験受験前の再確認をしたい方などは是非ご参加ください。

詳細は追ってご連絡いたしますとともに、支部 HP にも掲載いたしますのでご覧ください。

定員を超えた場合は、2 級技術者試験を受験される方を優先します。また、最少催行人数を 3 名とし、3 名に満たない場合は中止することもありますのでご了承ください。

*25 年度は定員に満たなかったため、中止になりました

2. 報告事項

(1) 平成 25 年度役員会



1) 第 2 回役員会

日時：平成 25 年 6 月 15 日（土） 14:00～17:30

場所：藤田保健衛生大学 生涯教育棟 2 階ラウンジ

議題：① 基本技術交流会（第 6 回）について

② 第 49 回全国総会について

③ 東海実験動物研究会について

④ 関東支部懇話会の共催について

⑤ 北陸支部との合併について

⑥ その他

2) 第3回役員会

日時：平成25年8月3日(土) 10:00～12:00

場所：藤田保健衛生大学 医学部1号館 5階会議室

- 議題：① 総会会場視察について
② 合併協議について
③ 評議員の代理出席について
実技協の運営 現状と法人化後の比較
④ 基本実技講習会について

3) 第4回役員会

日時：平成25年8月4日(日) 17:00～18:30

場所：藤田保健衛生大学 基礎科学実験センター

- 議題：① 実験動物と動物実験 基本的動物実験手技(第6回)の反省
・プログラム、講義・実技内容の他、準備等々について
② 実験動物実技講習会(2級試験対策)について
・開催場所、定員等について

(2) 第1回合併懇談会

日時：平成25年9月28日(土) 12:00～13:30

場所：川崎医療福祉大学 川崎祐宣記念講堂 2階D会場

- 議題：① 参加者自己紹介
② 今後の予定について
③ 第49回静岡総会について
④ 新支部の名称について
⑤ 各支部の現状報告
・支部財政、協賛金について
・行事について
・会報、HPについて
・その他



(3) 『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技 (第6回)』

下記の日程で実技講習会が実施され、10名の方に参加いただきました。

日 程： 平成25年8月3日(土)～8月4日(日) 2日間
3日(土) 13:00～17:40
4日(日) 9:00～17:00 (終日)

会 場： 藤田保健衛生大学 基礎科学実験センター等

講 師： 藤田保健衛生大学 生命倫理学 教授 佐藤 芳 先生
藤田保健衛生大学 疾患モデル教育研究センター
准教授 長尾 静子 先生
国立長寿医療研究センター研究所 実験動物管理室
小木曾 昇 先生
実技指導員：日本エス・エル・シー株式会社 藤田 芳顕 先生

講習内容：

- | | |
|---------------------|----------|
| 1) 基本技術講習会開催にあたって | 高橋 久英 先生 |
| 2) 動物を対象とする実験の倫理 | 佐藤 芳 先生 |
| 3) 実験動物概論 | 長尾 静子 先生 |
| 4) 動物実験に関わる法律について | 小木曾 昇 先生 |
| 5) 動物実験の基本的手技 (DVD) | 藤田 芳顕 先生 |

実技講習：

- 6) 動物の取り扱い
- 7) 動物の保定と個体識別
- 8) 動物の麻酔、投与、採血、採尿等の実験手技
- 9) 動物の解剖、臓器摘出方法、安楽死法

今年度は、実技講習に従来のマウス・ラットとは別に、はじめてモルモットを取り入れ、モルモットでの実技講習の受講を試みたところ、4名の方が受講くださいました。

【参加者からの感想文】

参加された方から、講習会の感想をいただきました。

『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技 (第6回)』に参加して

東京通信病院薬剤部・慶應義塾大学大学院薬学研究科
米屋 未紀子

現在、私は、薬剤師として病院で勤務をしながら、大学院で、食品と癌遺伝子関連の実験・研究をしております。前期博士課程では、基礎医学にお詳しい先生の御指導の下、進めて参りましたが、後期課程に進学すると同時に、所属研究室の指導教官が、いずれも臨床医となられ、研究室の体制が変化し、実験・研究について相談・御指導頂けない状況となりました。講習会や機会を探しては、参加させて頂き、技術についての御指導を賜り、学ばせて頂いたことを糧として、実験を進めております。

今後、実験が進捗すると、動物実験を行なうことが考えられます。しかし、私は、これまで実験系で動物を扱ったことがなく、学部学生時代に授業で数時間の実習を行なったのみでした。その時に、生命を断つ事にためらいながら行なった頸椎脱臼の感触と光景が今でもはっきり思い出されます。特に大切な生命を犠牲にする実験系において、論文に出ているからと取り合えずやるということに、躊躇があります。また、これまでの経験から、基礎をきちんと理解し・技術を身に付けた上で実験を行なうことが、再現性のある実験データを得るためにとても大切であると感じておりました。無用な殺生をしないためにも、しっかりした実験を行いたいと考えました。しかし、きちんとした御指導を受けられそうもない、どうしよう。どこかで学ばなければ、と必死にネットを検索し、お申し込み最終日に、御会の実技講習会を見付け参加させて頂くこととなりました。思わぬ助け舟に、神様がいるのかしら、と感謝の気持ちで一杯です。

座学講習では、まず高橋先生から動物実験に対する世論の動向と動物実験の重要性についてのお話を伺い、確立された動物実験代替法が少ない現状を思うと、多くを考えさせられました。続く「動物を対象とする実験の倫理」では、これまで伺って来た法規に基づく倫理の捉え方ではなく、より本質的な内容で印象に残りました。2つの倫理「義務・禁止」「許容・許可」(拘束力の差)をどのように動物実験において考えるか、宗教観の差やアリストテレスの功利主義からカントまで、感情論だけでは説明・解決できない本質について、深い考え方を持って動物実験が行なわれていることを知りました。かわいそう・いたたまれないという思いは、初心者では大半の方が感じる事かと思います。しかし、実際に行なっていくには「殺生する」罪悪感から来る心理的負担と付き合う訳ですが、考え方の1つの方向性を学びました。このことは今回の収穫の1つでもあります。更に、動物実験概論では、ヘルシンキ宣言と動物実験の関係に始まり、法規、実験動物の概略、実際の研究例まで多岐に渡る御講義でとても楽しくアツと言う間に時間が過ぎ翌日の実技実習が待ち遠しくなってきたところで、大切な「動物実験に関わる法規」で気が引き締め、手技に関する御講義と続き、順を追って理解できる構成に時間が早く過ぎるように感じた半日でした。

2日目の実技実習では、投与方法や採血方法を学ぶことを目的としておりましたが、何よりも保定が大切であることを学びました。特にラットでは心を込めて優しく接すると懷いて穏やかになり、動物に負担がかからず、実験者にとっても危険が少ない保定ができることを知りました。動物を傷付けず、正常な状態を保って実験を行なうことが簡単ではないこと、また動物は精神的に安定しない状態では代謝等が変化し正しい実験結果が得られないということを体感させて頂きました。また、すぐに行なえるのではと考えておりました尾静脈投与や口腔内投与がいかに熟練のいる行為であり、これまで目にしておりました手技が必ずしも正しいものではなく、それが Negative Data の一因ともなるのでは、と考えてしまいました。何事も基礎が大切であると感じました。

実験を行なう前に、これから身に付けなければならないことが沢山あり、身が引き締められました。

実際に動物に触り、皮膚感や動きなどを体感することで、教科書や練習用の

模型ラットからでは得られないことを多く学ぶことができました。

私と同様に、なかなか実験技術を御指導頂けない環境下でも細々と研究を頑張っている方々も少なくないと思います。正しい技術をどのような立場の者でも平等に学べる今回のような講習会の開催は、本当に有り難いことで、様々な研究のレベルの向上や維持を支えることになると感じました。

実験を丁寧に大切に考える先生方に会い、ホッとできた一時でもありました。

動物実験を実験計画に追加するかどうかは慎重を期さなければ、と思っております。

此の度は、全くの初心者である私に、このような貴重な機会を御提供下さり、先生方には、お時間ギリギリまで、手取り足取り、付き切りでの懇切な御指導賜りまして、心から感謝申し上げます。

御会で学びましたことを大切に生かしてこれからも実験を続けて参りたいと思います。

先生方には、心から御礼申し上げます。



講習会の様子



懇親会の様子

第6回 基本的動物実験手技に参加して

大阪大学大学院薬学研究科 応用環境生物学分野
原田 和生

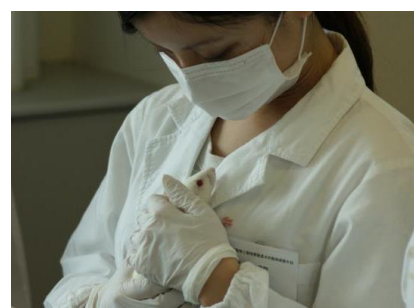
私は動物実験の経験が皆無で、1日でどれだけ習得できるか非常に不安でしたが、本講習会は自分の為に設定して頂いたと感じるほど私にとって有意義な内容でした。私は長尾先生らお二人にご指導頂きましたが、最初保定でさえうまくいかず先生方を困らせてしまいました。本当にすいませんでした。

しかし、先生の熱心なご指導の御蔭で保定、経口投与、腹腔内投与は独力で行えるようになりましたし、尾静脈投与・採血はすぐに実験に使えるレベルではありませんが、一人で練習できるようには到達できました。本当にありがとうございました。

受講者一名に対し講師が一名以上、ほぼ専属で指導して頂いたのは非常にありがたかったです。事前準備や土日の講習会本番と、講師の方の時間的、肉体的

的、精神的負担は相当なものであったと推察いたしますが、その御蔭でこのように初心者でもしっかり技術を習得できたのだと思います。ただ、講師の先生方や参加者の方々と話をしていると、実際に研究を行っていくため、あるいは質の良いデータを取得するというレベルに到達するためには、まだ鍛錬が必要かと感じております。また、個人的には今後、薬物動態解析を行っていきたいと考えているのですが、それに必要な知識、技術はまだ不足していると考えております。今後、より高度な実験技術の、実技を含めた技術講習会が開催されるのであれば、是非とも参加したいと考えております。

実習風景あれこれ



3. その他

(1) メーリングリスト登録について

東海支部では従来よりPDF会員と称し、ご希望があった会員の皆様のメールアドレスをメーリングリスト（ML）に登録し、会報の発信等を行ってきました。最近では多方面からの情報の配信の必要性もあり、今後は会報のみならずさまざまな情報を発信していく予定です。郵送による情報の提供よりも早く、またML会員だけに送られる情報もありますので、ぜひMLに登録していただきますようご協力をお願いします。なお、お知らせいただきました個人情報（メールアドレス等）はMLのみに使用し、他には一切使用いたしません。

*ML登録希望の方は、東海支部事務局まで e-mail にてお申し込みください。

事務局 e-mail mailtokai@jaeat-tokai.org

(2) 年会費について

本協会は会員の皆様の会費により運営されています。本年度の会費が未納の方は至急お振込みをお願いいたします。

年会費：6,000 円

振込先 名 称 : 日本実験動物技術者協会
口 座 : 00130-9-102291
取扱機関 : 落合郵便局

(3) H P について

東海支部では、支部の活動やさまざまな情報をより早くお知らせするため、支部HPを活用しております。随時更新していきますので、ぜひ皆様もご覧ください。

また、ご意見、ご希望がありましたら東海支部事務局（担当：羽根田）までお知らせください。

HPのURLは、 HP：<http://www.jaeat-tokai.org> です。



Japanese Association for Experimental Animal Technologists TOUKAI-branch

2013 年 10 月 No. 49

<発行者> 支部長 前田 典彦

<発行所> 日本実験動物技術者協会東海支部

<事務局> 事務局長 羽根田 千江美

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪 1-98

藤田保健衛生大学 疾患モデル教育研究センター

TEL&FAX 0562-93-9398

e-mail: mailtokai@jaeat-tokai.org

HP: <http://www.jaeat-tokai.org>